

徳之島実習について

今回は夏季離島実習の機会に徳之島に実習に行きました。地元が沖永良部なためか、徳之島にも同じ雰囲気を感じながら港に到着しました。

まず保健所に行き、徳之島の現状の話を聞きました。また、徳之島保健所は沖永良部、与論も管轄下にあるため、南三島の現状もお聞きすることができました。離島の保健所の問題点としては、専門医の不在や医療機器などの資源に限られることだったり、交通費や人員の問題により会議や研修への参加を制限されてしまうことだったりがあります。しかし、緊急時に台風の影響などにより公共交通機関が止まるため、すぐに現場に行けない可能性があるということが1番の問題点であるとおっしゃっていました。

保健所でのお話を聞いた後は宮上病院の方に行きました。宮上病院は常勤医が5人いて、思っていたよりも大きな病院でした。島の方では徳洲会病院が大きな病院で他は診療所みたいなものだと思っていたところがあったので驚きでした。

宮上病院で私は3日目に大きな出来事を目撃しました。午後5時前、私が訪問診療から病院へ帰ると一台の救急車が止まっていました。救急の患者さんが来られました。医師の方に話を伺うと午後3時ごろに転倒し頭をぶつけてしまい、その後吐き気を催したため、緊急搬送したとのことでした。MRIの検査をすると脳内出血が起こっていることが判明しました。宮上病院では脳外科の先生はいないため県立大島病院が沖縄に搬送しないと行けないとのことでした。しかし、時刻は午後5時。奄美大島へのドクターヘリはもうほとんど止まる時間でした。ご高齢の方であったこともあり、沖縄に搬送してる時間はないとの判断でした。先生方は話し合い経過観察することが決まりました。この状況を目撃して離島の医療事情を感じることができました。例えば鹿児島市内で倒れたら陸路を使いすぐに大きな施設の揃った病院に行くことができます。しかし、徳之島を含む多くの離島ではそれが叶わないという現実を見ました。また、台風により専門医の先生が本土から来られなくなり、治療ができない患者さんもいました。離島での問題点を教科書ではなく実際に目で確認することができたとても私にとって大きな出来事となりました。一生この問題は解決策を探していかないといけないことだなと感じました。

俳句を読ませていただきます。 離れ島 戻ってくるよ 必ずな

この句はたくさん問題を抱える離島ではありますが、その中でも訪問診療など患者さんと触れ合うと「頑張ってください！」や、「徳之島にも来てくださいね」などと喜ばしい言葉をかけてくださる島民の暖かさに感化された時に思いついた句になります。

今回の離島実習は去年とは異なり、少しばかり知識が増えたおかげか医師の方の話についていけることもあり、たくさん質問をすることができました。また、医師の方もたくさん症例を私たちに教えてくださいました。離島のことを考えられる良い実習になりました。実習させてくださった宮上病院の方をはじめ、たくさんの方に感謝し、勉学に励みたいと思います。ありがとうございました。